

CoOp Calendar



CONTENTS

年頭のご挨拶	1
宮城県生協連会長理事 冬木 勝仁	
宮城県生協連の活動	2
・宮城県生協連第56回総会（2025年度） 第1回監事会報告	
・宮城県生協連第56回総会（2025年度） 第3回理事会報告	
・宮城県に「灯油価格の抑制及び安定供給に向けた行政の役割強化を求める要請書」を提出	
・「令和8年度仙台市食品衛生監視指導計画（中間案）」へ意見を提出	

会員生協だより	4
・みやぎ生活協同組合	
・生活協同組合あいコープみやぎ	
・東北大学生生活協同組合	
・宮城大学生生活協同組合	
・宮城労働者共済生活協同組合	
・宮城県高齢者生活協同組合	
協同のとりくみ	8
平和のとりくみ	10
消費者行政の充実強化をすすめる懇談会 みやぎの活動	11

NPO法人 介護・福祉サービス 非営利団体ネットワークみやぎの活動	12
適格消費者団体 認定NPO法人 消費者市民ネットとうほくの活動	13
宮城県ユニセフ協会の活動	14
公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ ネットワーク（MELON）の活動	15
新聞記事	16
資料	22



年頭のご挨拶



新年あけまして おめでとうございます

宮城県生協連会長理事 冬木 勝仁
(みやぎ生活協同組合理事長)

宮城県生活協同組合連合会を代表いたしまして新年のご挨拶と旧年中の御礼を申し上げます。

「米にはじまり、米に終わる。今年は、そんな1年だったと振り返らざるを得ません。『令和の米騒動』と言われた昨年の米不足からはじまった一連の騒動は一向に収まる気配を見せず、現在も不安定な状況が続いています。」

これは、昨年12月10日に開催された「めぐみ野交流集会」で採択された集会アピールの冒頭の文章です。これに示されているように、一昨年来の米不足、価格の高騰は立場の違いを超えた全国民の生活に影響を及ぼしました。

2024年に改正された「食料・農業・農村基本法」では、「良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され、かつ、国民一人一人がこれを入手できる状態」を確保することが明記されています。しかし、その直後から続く「令和の米騒動」は消費者の家計を直撃し、基本法の目的の実現とは程遠い状況が生じました。

私が理事長を務めるみやぎ生協も「令和の米騒動」の影響を受け、2年続けて米の値上げをよぎなくされました。ただ、他の事業者と比べれば相対的に安定して供給できたと

思っています。その基礎にあるのは産消提携、協同組合間協同に基づく取り組みです。生産者から農協、全農みやぎ、パールライス宮城という安定した流通ルートがみやぎ生協の米事業を支えました。もちろん、個々の局面では困難に直面しましたが、生産者や農協グループとみやぎ生協との信頼関係が力を発揮したと考えています。

米問題に限らず、私たちの生活を取りまく状況は必ずしも安定したものではありません。不安定な国際情勢や円安などを原因とするエネルギーや食料など生活必需品の価格上昇は消費者のくらしを直撃しています。また、第一次産業の生産者にとって、生産資材価格高騰がこのまま続けば、生産が続けられないほどに深刻です。こうした状況に対し、私たち協同組合は連帯し、平和で持続可能な社会、安心して暮らせる地域社会の実現に向けて取り組んでいきたいと思います。

新年にあたり、会長理事としての所感を述べさせていただきます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



宮城県生協連第56回総会（2025年度）第1回監事会報告

第1回監事会は、12月16日（火）午前11時00分より、フォレスト仙台5階会議室において開催され、監事3人、理事3人、事務局5人が参加しました。

田中康治監事会議長が議事を進行しました。

野崎和夫専務理事より、2025年度上期（2025.4.1～2025.9.30）の経営状況および財務諸表、理

事の業務執行状況について報告がありました。質疑の後、帳票等の監査と理事の業務の執行状況について監査を行いました。

宮城県生協連第56回総会（2025年度）第3回理事会報告

第3回理事会は、12月16日（火）午後1時30分より、フォレスト仙台5階会議室において開催され、理事13人、監事3人、顧問2人が参加しました。（内、理事2人がWEB参加）理事会規則に基づき冬木勝仁会長理事が議長に就き議事を進行しました。

【協議事項】

2026年度事業計画策定にあたり、「全国生協の2025年度まとめと2026年度活動方針骨子案」について野崎和夫専務理事より、「全国の大学生協の2025年度のまとめと2026年度活動方針」について藤巻正之理事より紹介があり情報を共有しました。

【報告事項】

1. 会員生協からの取り組みについて河野雪子副会長理事、高

橋千佳理事、佐藤良治理事、佐藤望監事、若柳恒太郎副会長理事、藤巻正之理事よりそれぞれ報告がありました。

2. 上半期経営状況・業務報告、2025年度副知事懇談会開催計画、2025年度政党懇談会開催計画、2025年度消費生活協同組合役員研修会開催計画、2025年度北海道・東北地区行政・生協連絡会議報告、NPO法人消費者市民ネットとうほく活動報告、公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワークの活動報告、2026年度県連スケジュール、熊本県豪雨募金への御礼、子ども食堂への食品贈呈、NPT再検討会議への代表派遣について野崎和夫専務理事から報告がありました。

3. 2025年度第1回監事会について田中康治監事より報告が

ありました。

4. 灯油関連、第46回宮城県生協組合員集会開催、平和・憲法9条関連、消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの活動、消費税STOPネットワークみやぎの活動について石川宣子常務理事より報告がありました。

5. 宮城県及び仙台市の消費者施策の意見提出、NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎの活動について渡辺淳子常務理事から報告がありました。

以上の報告について出席理事全員、異議無く了承しました。

【文書報告事項】

行政・議会関連、各種委員、共催・後援依頼、広告協賛等について、文書により報告があり、全員異議無く了承しました。



宮城県生協連の活動

宮城県に「灯油価格の抑制及び安定供給に向けた行政の役割強化を求める要請書」を提出

11月13日（木）、宮城県知事あての「灯油価格の抑制及び安定供給に向けた行政の役割強化を求める要請書」を、環境生活部消費生活・文化課の遠藤尚志課長に、みやぎ生活協同組合の河野雪子副理事長が提出しました。（後掲）

宮城県の冬の主力エネルギーである灯油の配達価格は2,300円／18ℓ（缶）を超える高値となっています。灯油の利用がさらに増える時期を迎え、これ以上の値上がりは家計へ大きな負担となることから、価格の抑制と安定供給のための必要な行政施策を取ることを要請しました。また生活弱者や、年金生活者等に対して生活に不可欠な灯油購入を支援するための「福祉灯油助成制度」が、宮城県内のすべての自治体で導入されるよう市町村へ働きかけること、県

民のくらしに最も近い行政として国に頼るだけでなく、高騰するエネルギー価格、物価高に対して県独自の支援策を講じることを要望しました。

その後の意見交換では、参加したみやぎ生協の理事から冬の寒さが厳しい宮城県では灯油が生活に欠かせないこと、第一次産業従事者にとっても冬の作物栽培のためにはエネルギーが必要であること、郡部だけでなく都市部でもガソリンスタンドが減っており、配達灯油に頼らざるを得ない人たちにとって灯油の確実な入手が難しくなっていること、奨学金を返済している若者や子どもを持つ家庭にも大きな負担となり生活を切り詰めやりくりをしていることなど、各地域での実情が伝えられました。

県からは灯油の量の確保と価格抑制に対応するために石油元



宮城県の遠藤課長に要請書を手渡す河野雪子副理事長



佐々木ゆかり事務局長から要請の趣旨を説明

売り各社へ協力を要請していること、石油・石油製品の価格動向を監視し、HP上で公表を行っていること、国の情報を把握しながら市町村と協力し必要な支援策をとっていくことが報告されました。

参加者	宮城県	○環境生活部消費生活・文化課：遠藤尚志課長、横谷智江主幹（消費者行政班長）、日下部巧消費者行政班主査 ○保健福祉部社会福祉課：山田賀子副参事兼総括課長補佐、二瓶幸浩課長補佐（生活自立・支援班長）
	生協連	○みやぎ生協：河野雪子副理事長、小川浩美地域代表理事、菊地由香里地域代表理事、佐藤淑子地域代表理事、目黒純栄地域代表理事 ○宮城県生協連：石川宣子常務理事、佐々木ゆかり事務局長、稲葉勝美事務局次長 ○日本生協連北海道・東北地連：蛭田啓事務局員、山田洋平事務局員

「令和8年度仙台市食品衛生監視指導計画（中間案）」へ意見を提出

12月23日（火）、宮城県生協連と消費懇は、仙台市健康福祉局保健所生活衛生課食品衛生係

あてに、市民が健やかな食生活を営むための食品の安全性と信頼性を確保するために、消費者

の声を確実に盛り込んだ「計画」になるよう意見を提出しました。（後掲）



会員生協だより

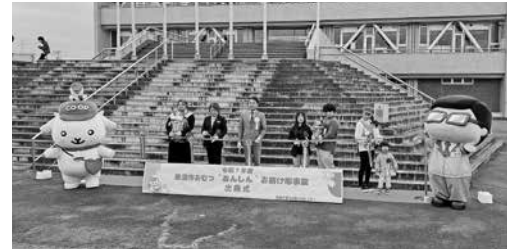
みやぎ生協

岩沼市おむつ“あんしん”お届け隊事業を受託

みやぎ生協は、包括連携協定を締結している岩沼市の「岩沼市おむつ“あんしん”お届け隊」事業を受託しました。この事業は、生後3ヶ月から満1歳の子どもがいる市内のご家庭に、無償で毎月1回定期的におむつ等をお届けすることを通じて、赤ちゃんと保護者の見守りをする岩沼市の子育て支援サービスで

す。子育て経験があり、市の子育て家庭の見守りに関する研修を受けた当組合の職員が、お届けの際に育児の悩みなどを伺いアドバイスしたり、市の子育て支援サービスへつなぎます。

10月14日（火）、岩沼市役所にて佐藤淳一市長も参加いただき、出発式を行いました。



出発式のテープカットの様式

みやぎ生協は、この事業を通じて地域で赤ちゃんを育てる岩沼市の子育て環境向上に全力を尽くしていきます。

（機関運営部次長 中塩晴彦）

核兵器廃絶学習会

11月15日（土）にみやぎ生協文化会館ウィズで被爆・戦後80年の平和の取り組み「核兵器廃絶」学習会を開催し、33人の参加がありました。

宮城県原水爆禁止協議会の川名直子さんが「核兵器廃絶 戦争ではなく平和な世界へ」と題して、2025年3月にカザフスタンで開かれた核兵器禁止条約（TPNW）第3回締約国会議を傍聴した内容と参加した感想を話されました。

世界の核弾頭数は増え、核兵器使用の危険性も増しているが、国連では核兵器廃絶を求める弱小国の声が大きくなっていることや非核兵器地帯が拡大していることなど、世界は核兵器廃絶に向かってしていると話されました。日本では、市民団体が大きな力を発揮していること、超党派議員懇談会が発足したことを話され、日本政府にTPNWに参加するよう求めて行きましよう、と結ばれました。



参加者アンケートでは「世界で唯一原爆が使われた国なのに核兵器禁止条約に批准出来ないことが残念です。ただ、私たちが声をあげることで世界から戦争や核兵器を無くすことが出来ると信じて、これからも反対の活動をしていきたい」など積極的な感想が寄せられました。平和の大切さを参加者と共有する学習会となりました。

（生活文化部課長 菅野久美子）



講師の川名直子さん



学習会の様子



会員生協だより

みやぎ生協

仙台ハーベストビレッジ店が待望のオープン！

12月12日（金）、待ちに待った仙台ハーベストビレッジ店がオープンしました。

発表から半年、そして「6次産業化構想」の着手から数えると足掛け7年越しに実現した待望のプロジェクトです。開店当日はあいにくの雪模様でしたが、オープンを待ちわびていた約400人が開店前から列を作るなど、高い関心と期待の中で当日を迎えました。

みやぎ生協が長年継続し発展させてきた顔とくらしの見える

産直「めぐみ野」や、東日本大震災復興として取り組んできた「古今東北」、農福連携を含めた就労支援施設商品、そして新たに地場商品を提供するコーナー「TUNAGU」を配置して6次産業化に貢献する店となります。

今回のオープンは、旧沖野店の移転に伴うもので、これまで沖野店をご利用いただいていた組合員の利便性を引き続き確保するため、新たにお買い物サポートカー「つなぐ号」の運行も開始しました。



オープンセレモニーの様子

仙台ハーベストビレッジ店は、「おいしいものがあるお店」「欲しいものがあるお店」「買い物楽しくなるお店」＝「わくわく・ドキドキする売り場」を目指します。

（機関運営部次長 中塩晴彦）

生協あいコープみやぎ

講演会「原発とエネルギーを初歩から学ぼう」

12月18日（木）中小企業活性化センターに於いて、FOE JAPANの満田夏花^{みつたかな}さんによる講演会「原発とエネルギーを初歩から学ぼう」を開催し、組合員18人が参加しました。組合員の方から寄せられた「原発って何がだめなの？」「ソーラー発電はどうなの？」といった声をきっかけに、原発やエネルギーについて初歩から学べる場として企画したものです。

満田さんのお話は非常に分かりやすく、原発は事故が起きた場合の危険性だけでなく、事故

がなくても放射性廃棄物や高いコスト、ウラン採掘の段階から環境汚染や人権問題を抱えていることが分かりました。また、メガソーラーなど、環境に優しいはずの再生可能エネルギーなのに却って環境負荷が起こるものもあることを改めて確認し、こうした課題に対して、知り、考え、声をあげ続けること、そして一人ひとりの市民の目が向いていることが、これ以上事態を悪くさせない力になると感じました。小さな行動や選択の積み重ねが、未来を大きく変えて



講師の満田夏花さん



講演を聴く参加者

いくことを参加者の方と共有できた時間となりました。

（理事 萩原晃世）



会員生協だより

東 北 大 学 生 協

「せんだい防災さんぽ」開催

東日本大震災について知り、大学生をはじめとした次世代へ継承することを目的に、12月6日（土）「せんだい防災さんぽ」を組合員（教職員1人、院生6人（内留学生3人））・組織委員・職員など16人の参加で開催しました。

はじめに震災遺構仙台市立荒浜小学校を訪れ、建物内部に残る被災の痕跡から、災害の現実を実感しました。また、児童や教員の証言映像を視聴し、当時の状況や震災伝承への想いを知ることができました。遺構を維

持し続ける地域住民と仙台市の尽力により、震災の記憶を学べる環境が保たれていることへの感謝も深まりました。

その後、震災後に整備されたJRフルーツパーク仙台あらはまでリング狩りをしました。被災した土地が農業や観光に利用されている様子から、時間と共に地域が変化してきたことを知ることができました。

最後に、グループワークで一日の学びを共有しました。日本と違って海外では、ハザードマップが公開されていない地域



荒浜小学校での被害の様子



グループワークの様子

があることなど、国際的視点を交えた議論も行われ、防災に対する理解をさらに深める機会となりました。

（院生委員 嶋野悠右・菊田歩佳）

宮 城 大 学 生 協

「総代パーティー」開催

太白キャンパスでは10月22日（水）、大和キャンパスでは10月29日（水）に生協学生委員主催で『総代パーティー』という企画を行いました。この企画では「総代についてと、CO・OP学生総合共済について楽しく知ってもらいたい」という想いから実施しました。

企画内容の一つとして、総代会での意見を受け期間限定で提供した「節約丼」を、当日用に別途準備したものを試食してもらい、何円なら購入したいと思えるかについて話し合う場を設

けました。また「共済人生ゲーム」というものを行いました。「共済人生ゲーム」とは、ゲームの最初に共済に入るかを選び、イベントマスに記載されている内容によって「共済に入っておいてよかった」と実感できるようなゲームにしました。

初開催ということもあり、参加者は両キャンパスで多くはありませんでしたが、来年度以降は総代以外の学生や、新入生にも参加を呼びかけ、今回のように楽しく伝えることで生協総代や共済に興味をもってもらえる



太白キャンパス



大和キャンパス

のではないかと考え、今回得たこと、学んだことを次に生かしていきたいと思います。

（太白キャンパス学生委員会委員長 菅原颯馬）



会員生協だより

宮城労済生協

「ミヤギテレビ子育て応援団すこやか2025」に参加

こくみん共済 coop 宮城推進本部では10月18（土）・19日（日）セキスイハイムスーパーアリーナにて未来を担う子どもたちやそのご家族を対象に地域に根ざした社会的取り組みとして「子育て応援団すこやか2025」へブース出展をおこないました。

イベントでは「防災・減災の啓発資材およびパネル展示」や親子で作る「防災グッズ（紙で作るコップ）」の作成、地盤状況をスマートフォンで簡単に確認できる「地盤診断サービス」、防災知識をクイズ形式で気軽に

学べる「みんなで防災クイズ」、VRゴーグルを使用した「VR体験（地震・浸水体験）」等で防災・減災に関する知識を、当会公式キャラクター「ピットくん」と一緒に学ぶことができました。

当日は、当会を含め37団体がブース出展をおこない、2日間合計で19,355人（当会ブースへの来場組数は延べ246組）の方々にご来場をいただき、子ども達の笑顔とご家族の笑い声が絶えない2日間となりました。

（こくみん共済coop宮城推進本部
部長 加藤真也）



防災グッズ作成風景



VR体験

宮城県高齢者生協

いりり庵こぶしのクリスマス会

小規模多機能型居宅介護事業所いりり庵こぶしのクリスマス会は12月24日（水）と25日（木）の2日間で行われました。24日は利用者さんの息子さんが参加し、「有楽町で逢いましょう」「与作」など4曲を披露しました。肝心の利用者さんは変装している自分の息子とは気づかずに楽しんでいる姿がありました。みんなでクリスマスソングや昭和歌謡をギター演奏で歌い、ひとりひとりにサンタクロースから

のプレゼントがあり、和やかなクリスマス会となりました。

いりり庵こぶしのイベントに家族の方が自ら参加希望を申し出ることはこれまでなく、日頃の活動の様子をお便りなどでお知らせして、楽しそうなイベントをしている雰囲気が伝わったのではないかと思います。今後のいい教訓として学びました。

（常務理事 藤田均）



利用者さんの息子さん（右）が一緒に参加



みんなでクリスマスソングを歌う

宮城県労働者福祉協議会

宮城県及び仙台市へ勤労者福祉に関する要請書を提出

宮城県労働者福祉協議会では、勤労者福祉に関する要請を、宮城県及び仙台市に対して行いました。主な要請項目は、災害公営住宅・過疎地域の交通手段確保、災害における被災者生活支援、人口減少下の地域社会の維持向上、格差是正、貧困のない社会へのセーフティネット強化、消費者政策の充実・強化、持続可能な介護体制を早急に再

構築、くらしの安全・安心の確保に向けてなどです。(後掲)

12月5日(金)宮城県庁において村井嘉浩宮城県知事に、12月24日(水)仙台市役所において郡和子市長にそれぞれ要請書を手渡し要請、懇談しました。知事と市長からは、要請の趣旨



村井知事と郡仙台市長に要請書を渡す大黒雅弘会長

をふまえて施策のなかで検討していく旨の話がありました。

宮城県労働者福祉協議会構成団体：連合宮城、東北労働金庫宮城県本部、こくみん共済coop宮城県推進本部、宮城県生協連、労働者福祉資産協会、労働福祉センターみやぎ等

宮城県協同組合こんわ会

「こども食堂」へ支援品を贈呈しました

宮城県協同組合こんわ会(宮城県農業協同組合中央会・宮城県生活協同組合連合会・宮城県漁業協同組合・宮城県森林組合連合会)は、12月11日(木)みやぎ生協文化会館ウィズにおいて、こども食堂への支援品贈呈式を開催しました。当日は、こども食堂の運営者、関係者53人が参加しました。宮城県協同組合こんわ会は、地域社会への奉仕・貢献活動の一環として、

2020年度以降、継続してこども食堂の支援を行っています。

開会にあたり、宮城県協同組合こんわ会を代表して、JA宮城中央会高橋慎常務理事より挨拶があり、続いて、「みやぎこども食堂ネットワーク」を代表して、NPO法人ふうどばんく AGAINの富樫花奈副代表理事より、継続的な支援に対する感謝が述べられました。

今回は、2025国際協同組合



NPO法人ふうどばんく AGAIN富樫花奈さん(中央)

年(IYC2025)の取り組みの一環として東日本信用漁業協同組合連合会宮城統括支店から「宮城県産銀鮭」が提供されました。

「みやぎこども食堂ネットワーク」に加入する114団体のうち、希望のあったこども食堂50団体を対象に、以下の支援品を贈呈しました。

団体名	支援内容
宮城県協同組合こんわ会 宮城県農業協同組合中央会 宮城県農業協同組合連合会	令和7年産宮城県産ひとめぼれ(5kg×100袋)
宮城県生活協同組合連合会 みやぎ生活協同組合	仙台 曲がりねぎ(29袋)
	COOP 3種のプチ用菓子ミックス、COOPこだわりのおかきしょうゆ(各300袋)
	COOPファミリーチョコレート(208袋)
宮城県漁業協同組合	めぐみ野シャキシャキえのき(150袋)
宮城県森林組合連合会	乾海苔10枚入り(600袋)
東日本信用漁業協同組合会宮城統括支店	乾燥しいたけスライス(200袋)
	銀鮭(29袋)

東北労働金庫

フォーラム2025「誰もが安心して働き・暮らせる東北をめざして」

12月4日（木）、東北労働金庫が「東北ろうきんフォーラム 共生社会の実現に向けた新たな連携のカタチ」を開催しました。このフォーラムは、暮らしや地域を取り巻く課題が多様化する中で、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくり、互いに支え合い、共に生きる「共生社会」の実現のために、「協同組合」「労働団体」「NPO」各分野の取り組みや課題を共有し、連携によって生まれる可能性について考えることを目的としたもので約110人が参加しました。

フォーラムの冒頭では、全国労働金庫協会政策調査部事業創造ディレクター山口郁子さんから、「助け合いのネットワークで築く共生社会」のテーマに基調提案がされました。『課題解決に向けた「地域連携」』、『地域をより良くする「お金の循環」』、『実現に向けて、今後取り組むべきこと』を参加者が一緒に考えるための提案がされました。

その後、宮城県大崎市の特定非営利活動法人「学びの庭」理事長鈴木福壽さん、福島県郡山市の一般社団法人「CARNIVAL WORKS」代表理事江藤大裕さんから、「東北ろうきん復興支援・社会貢献団体助成金」の支援を受けた取り組みが報告され

ました。

パネルディスカッションは、「共生社会の実現に向けた新たな連携のカタチ～事業・活動の課題と解決の方向性や協同組合・労働団体・NPOの連携の可能性などについて」のテーマで行われ、宮城県生活協同組合連合会野崎和夫専務理事のほか、宮城県労働者福祉協議会大黒雅弘会長、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター青木ユカリ常務理事がパネラーとして登壇しました。

野崎専務理事からは、生協を社会資源として捉えた際の地域貢献について、包括連携協定や高齢者見守りなど行政との連携や、若者や福祉活動に関わる地域住民・民間団体による非営利で継続的な地域活動の支援、2025国際協同組合年（IYC）宮城県実行委員会設立についてなど、具体的な取り組みを交えて報告がされました。

また、人口減少や気候変動が予想より速く進むなど、環境が



講師の山口郁子さん



パネリストとして登壇した野崎専務理事

大きく変わる中でも、時には助ける側、時には助けられる側になりながら、一人ひとりが役割を持ち活動に参画することの重要性、行政、他団体との連携についても、それぞれの状況に合わせて柔軟に対応していくことが重要なのではないかと話されました。

今回のフォーラムでは、課題解決に向けた連携について考える機会となりました。



東北ろうきん復興支援・社会貢献団体助成金を受けた団体からの報告

核兵器廃絶ネットワークみやぎ

「講演会&第4回総会」開催

11月22日（土）、核廃絶ネットの「講演会&第4回総会」が戦災復興記念館第2会議室で開催されました。

開会あいさつで、木村緋紗子代表は、「長年、被爆者のために尽力してくださった」と講師の佐々木功悦議員を紹介されました。「今日は大変良い日であること、そして、参加者にとって有意義な時間となることを願っています」と話されました。

講演会では、宮城県議会議員で非核の政府を求める会常任世話人の佐々木功悦さんから「ノーベル平和賞を力に核兵器のない世界の実現を～私の非核運動の取り組みと展望について～」と題してご講演いただきました。

宮城県選出の国会議員秘書を務められた後に、小牛田町長・美里町長を歴任した佐々木功悦さんが、平和について関心を抱き、続けてきた非核活動と、被団協がノーベル平和賞を受賞した意義について語られました。地元の中学生の広島・長崎への派遣、庁舎や広報誌に「核兵器に依存しない社会を、人間は核と共存できない」という平和宣言の掲示など、平和の理念を政治にどう反映させるかを模索してきたことを話されました。日本被団協へのノーベル平和賞受

賞の意義は、「戦後80年に際し、日本国憲法を厳格に守り、核抑止力からの解放を促す世論の喚起となったことだ」と力説されました。講演の終わりに、1984年に被爆者の渡辺千恵子さんの原案を基に構成された合唱組曲「平和への旅へ」を映し、被爆の実相を伝えるにふさわしい映像として、多くの人々に広めようとしていると述べられました。核廃絶に向けた活動の継続と被爆の実相を継承することが大切であると強調し、自分の人生ある限りは諦めない（Never give up）という思いで頑張っていきたいと決意を表明されました。

熱く語られた佐々木議員の講話に、参加者からは大きな拍手が送られました。

引き続き第4回総会を行い、事務局から、宮城県内全自治体の意見書採択を目指し、重点的に働きかけを継続すること、市民へのアピールとして、2026年1月22日に5周年記念イベントを開催し、昨年以上の120人を超える参加を目指すこと、宮城県原爆被害者の会への支援と被爆者・被爆2世を中心として運動を拡大することなど、2026年に向けての取り組みが共有されました。

会場の参加者からは、世界的



開会挨拶をする木村緋紗子代表



講師の佐々木功悦県議員



総会の議案説明をする川名事務局長

な核廃絶の動きの適切な報道を求めること、「非核三原則」見直し論を否定してその重要性を発信すること、不安を抱える市民との対話の機会の必要性などの意見が出されました。

閉会あいさつの中で、事務局の加藤房子さんは、高市政権の危うさを感じ、現在の政治情勢へ危機感を抱いている、被爆者への謝罪は日本国政府がするのが筋であると話しました。参加者への感謝を述べ、総会の終了を宣言しました。

（常務理事 石川宣子）

消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎの活動

消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ(略称:消費者懇)【構成団体】宮城県生協連、NPO法人仙台・みやぎ消費者支援ネット、宮城県地域婦人団体連絡協議会、宮城県消費者団体連絡協議会、みやぎ生協、生協あいコープみやぎ、(公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)

学習会「仙台市の消費生活施策の推進と消費者教育に関する計画を知ろう」開催

11月17日(月)フォレスト仙台5階会議室において、仙台市消費生活センターとの共催で、学習会&市民説明会「仙台市の消費生活施策の推進と消費者教育に関する計画を知ろう」を、各構成団体の理事や市民など14人の参加で、開催しました。

仙台市では、消費者が安全に安心して暮らせる社会の実現を目指し、消費生活に関する施策の推進に取り組んでおり、「仙台市消費生活基本計画・消費者教育推進計画(計画期間:令和8~12年度)の策定が進められています。現在、パブリックコメント手続きを実施中であることから、消費生活相談の現況を知るとともに、施策の中間案に関する意見交換する機会とし

ました。

開会にあたり、野崎和夫副座長(宮城県生協連専務理事)が、参加者が消費者政策についての理解を深め、消費者としてどのような対応が必要かを考える機会となることを期待している、と挨拶しました。

その後、仙台市市民局生活安全安心部・仙台市消費生活センター所長の柴田恵美さんから詳しい説明がありました。

これに対して参加者から、①高齢者や若年層の消費者トラブルへの対応について、②エシカル消費の普及啓発について、③地域での相談や情報提供の体制について、④消費者対象企画の広報について、⑤学校との連携や保護者へのアプローチについ



講師の仙台市市民局生活安全安心部・仙台市消費生活センター所長柴田恵美さん

てなどの質問・意見がありました。仙台市側からは、若者への啓発を強化するための出前講座や、高齢者への支援の説明があり、今後とも連携を重ねていきたいとの発言がありました。

参加者にとっては直接仙台市担当者と情報交流ができた有意義な時間となりました。

宮城県「消費者施策推進基本計画(第5期)中間案」「教育推進計画(第3期)中間案」および、仙台市「消費生活基本計画・消費者教育推進計画(中間案)」への意見提出

宮城県では、消費生活条例に基づき策定された「消費者施策推進基本計画」「教育推進計画」の令和8年度~13年度までの計画を策定する年に当たり、10月15日(水)から11月14日(金)までの期間、中間案に対し、県民から意見・提案を募集しました。

また仙台市では、「消費生活基本計画・消費者教育推進計画」(計画期間:令和8~12年度)の策定を進めており、10月22日(水)から11月21日(金)まで意見を募集しました。

消費者の声を盛り込んだ計画になるよう、消費者と宮城県生

協連は、11月13日(木)に宮城県環境生活部消費生活・文化課消費者行政班あてに、11月20日(木)に仙台市市民局生活安全安心部消費生活センターあてに意見書を提出しました。(後掲)

(事務局長 石川宣子)

消費者行政の充実強化を
すすめる懇談会みやぎ

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F
TEL 022-276-5162 FAX 022-276-5160

Eメール sn.m10046kn@todock.coop URL <https://kenren.miyagi.coop/consumer/index.html>

NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎの活動

介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ(略称:介護・福祉ネットみやぎ)は、良質な介護・福祉サービスの提供と健全な事業運営のため活動しているネットワーク組織です。会員数:正会員団体17、個人正会員18、団体賛助会員3、個人賛助会員67(2025年6月現在)

みんなで考えよう介護保険!「みやぎ県民フォーラム2025」開催

12月13日(土)フォレスト仙台第2ホールにおいて、実行委員会構成団体の13団体(下段参照)主催による「みんなで考えよう介護保険!みやぎ県民フォーラム2025」を開催しました。介護事業者、介護従事者、利用者、関連団体、一般市民などオンライン配信を含め100人の参加がありました。

2000年より施行された介護保険制度は、近年大きく改定され、サービス給付範囲の縮小、介護保険料・利用料などの国民負担が増大しています。

一方で2024年度介護報酬改定率はプラス改定になったものの事業者が抱える経営困難を打開できず、物価高騰等により深刻さが増しているのが現状です。特に訪問介護サービスの基本報酬マイナス改定については訪問介護事業所から厳しい意見が多く寄せられています。利用者に行き届いた介護が保障され、介護職員が専門性を発揮し生き生きと働き続けられる介護保険制度が求められています。

第1部は『なぜケア労働の賃金はあがらないのか』～介護保険制度が抱える構造的問題から～と題して、実践女子大学教授の山根純佳さんをお迎えしました。訪問介護事業の実態調査等から見えてきた課題を通し、介護保険制度の改善点についてご講演いただきました。「介護の社会化が新自由主義的な市場原理へと変質した結果、労働者の献身性に依存した低賃金構造が固定化されている。労働者と利用者が『共通の利益』のもとで連携し、ケアを公共の手に取り戻すための市民運動が必要である」と強く訴えられました。

第2部は介護をめぐる現状について現場からの実態が報告されました。自治体独自支援制度の経験から落合久三さん(宮古市市議会議員)、要介護者を支える家族の立場から高木香さん(公益社団法人「認知症の人と家族の会」宮城県支部)、地域の状況について鈴木由香里さん(坂総合病院ケアマネジャー)、この間の報告と2026年の運動



講師の山根純佳さん



介護現場からの報告①落合久三さん②高木香さん③鈴木由香里さん④佐々木隆行さん

提起を佐々木隆行さん(みやぎ県民フォーラム事務局長)らがそれぞれの立場で意見を述べました。

最後に実行委員から集会アピール案が提案され、採択されました。(後掲)

(事務局長 渡辺淳子)

【実行委員会構成団体】(NPO) 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ、(社福) 宮城厚生福祉会、宮城県生活協同組合連合会、(公財) 宮城厚生協会、宮城県民連事業協同組合、(公社) 認知症の人と家族の会宮城県支部、宮城県保険医協会、宮城県社会保障推進協議会、宮城県医療労働組合連合会、宮城県民主医療機関連合会、全国福祉保育労働組合宮城支部、(社福) こーぶ福祉会、フルール介護ステーション(順不同)

NPO法人介護・福祉
ネットみやぎ

〒981-0933仙台市青葉区柏木1-2-45フォレスト仙台5F
TEL 022-276-5202・FAX 022-276-5205
Eメール sn.mkaigonet2@todock.coop URL <https://kaigonet-miyagi.jp>

適格消費者団体 認定NPO法人 消費者市民ネットとうほくの活動

消費者市民ネットとうほく(略称:ネットとうほく)は、消費者被害の未然・拡大防止及び救済のため、消費者や消費者団体・関係諸機関・消費者問題専門家等と連携し、消費者被害の調査・研究・情報収集、是正申入れ等の活動を行っている内閣総理大臣認定の適格消費者団体です。

2025年度「第4回・第5回ネットとうほく消費者被害事例ラボ」

2025年度の消費者被害事例ラボは全7回を予定しており、第4回を10月23日(木)、第5回を11月13日(木)に開催しました。

【第4回】「決済サービス提供と法的責任」(講師:岩手県立大学 窪幸治教授)

近年、日本のキャッシュレス決済比率はすでに42%を超え、その割合と重要性は日々増大している一方、キャッシュレス決済に関する消費生活相談件数は約21万件に達し、クレジットカードの不正利用被害額も約555億円に上るなど、消費者被害の拡大が顕著です。このような状況を受け、内閣府消費者委員会では「支払手段の多様化と消費者問題に関する専門調査会」が設置され、既存の規制の対象となっていないと考えられる支払い手段(後払い決済・キャリア

決済)など課題の整理が進められています。

【第5回】「消費者契約法9条再考—解約料の実態に関する研究会を踏まえて—」(講師:福島大学 山崎暁彦准教授)

解約料(=キャンセル料)は、事業者が解約にて生じる損失を補填するものとして消費者契約法で規律しているものの、損失補填以外にも売上安定化や顧客の囲い込みを目的とした価格差別(予約のタイミングによって解約料が変わる早割、〇年縛り)など複数の目的が重複的に含まれる解約料条項が見受けられ、解約料条項に関する消費生活相談件数は高止まりしています。こうした実態を受け、「解約料の実態に関する研究会」が開催されました。解約により生じる



講師 窪幸治教授



講師 山崎暁彦准教授

損失についての考え方は、業界、サービス・商品によって異なり、例えば外食産業では「No show(無断キャンセル)」が大きな問題となっています。研究会では、解約料の在り方について検討され、今後望ましいルールの在り方についての提言が出されました。その後の意見交換では、「そもそも平均的損害が分からない」「損害の補填だけで解約料の設定がされていることに違和感があった」「消費者行動を踏まえた制度設計が重要になってくる」など様々な意見が出されました。

2025年度「無料電話相談会」報告

ネットとうほくでは、仙台弁護士会所属弁護士による「無料電話相談会」を2025年7月から12月まで(毎月第1金曜日13時~16時)、全6回行いました。消費生活トラブルの相談や情報提供は、宮城県内や東北各地か

ら多く寄せられ、相談件数は30件でした。また相談日には開始時間と同時に電話が鳴り、担当弁護士も受付メモを書き終えないうちに次の相談を受けることがありました。

ネットとうほくでは、事業者

から受けた金銭的な被害回復ができる特定適格消費者団体に向けての準備活動の一つとして、電話相談を行っています。2026年度も実施できるよう活動していきます。

(事務局 金野倫子)

認定NPO法人消費者
市民ネットとうほく

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-40 ブライトシティ 柏木703号室
TEL 022-727-9123・FAX 022-739-7477

Eメール shiminnet-tohoku@triton.ocn.ne.jp URL <https://www.shiminnet-tohoku.com/>

ユニセフ(UNICEF:国際連合児童基金)は、世界の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。宮城県ユニセフ協会は「協力協定」を締結し、県を代表するユニセフ活動の拠点として、ユニセフの広報・募金活動を実施しています。会員数：一般142 団体7(2024年12月)

「2025年度第2回理事会」

「宮城県ユニセフ協会設立30周年記念式典・祝う会」開催

宮城県ユニセフ協会は、12月9日(火)江陽グランドホテル白鳥の間において、「2025年度第2回理事会」と「宮城県ユニセフ協会設立30周年記念式典・祝う会」を開催しました。

宮城県ユニセフ協会は、ユニセフの活動を支援するため、1995年9月に「財団法人日本ユニセフ協会宮城県支部」として設立し、今年で30周年を迎えました。2011年4月に日本ユニセフ協会の公益財団化に伴い、組織名を「宮城県ユニセフ協会」と改め、公益財団法人日本ユニセフ協会の協定地域組織として活動を継続してきました。

始めに「第2回理事会」を開催し、2025年度事業報告・収支報告、2026年度事業計画・収支予算について審議しまし

た。

「宮城県ユニセフ協会設立30周年記念式典・祝う会」では、はじめに宮城県ユニセフ協会の一力雅彦会長(株式会社河北新報社代表取締役社長)より挨拶がありました。続いて日本ユニセフ協会専務理事の早水研様からお祝いの言葉を頂戴しました。宮城県知事の村井嘉浩様からはビデオメッセージが寄せられました。

記念公演は、渡辺正隆さんのギターの演奏とともに、フリーアナウンサーで朗読家の渡辺祥子さんの朗読によるメッセージコンサート「ユニセフPoems for Peace～平和の詩～」では、紛争下で暮らしている子どもたちの恐怖と悲しみ、平穏な未来を望む強い想いが込められた詩



日本ユニセフ協会早水研専務理事



渡辺祥子さんの朗読

を朗読していただきました。

これからも世界の子どもたちにたくさんの笑顔と明るい未来を届けるため、ユニセフ支援の輪を広げてまいります。

第47回ユニセフ ハンド・イン・ハンド街頭募金活動

今年のテーマは『すべての子どもに生きる希望を!』と題して取り組みました。

12月13日(土)、仙台駅西口2階出入口付近で3か所に分かれて募金活動を行いました。当日は曇り空の寒さにもかかわら

ず、ボランティアやガールスカウトのみなさん、みやぎ生協地域代表理事のみなさんが活動に参加しました。家族連れや旅行者など、多くの方にご協力をいただきました。

ありがとうございました。



ハンド・イン・ハンドの様子

(事務局長 佐々木英美)

宮城県ユニセフ協会

〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2 みやぎ生協文化会館ウィズ内
TEL 022-218-5358・FAX 022-218-5945
Eメール sn.municef_miyagi@todock.coop URL <https://www.unicef-miyagi.gr.jp/>

みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) は、緑と水と食をとおして暮らしを考え、地球と地球環境の保全に寄与するために、多くの市民、知識人、協同組合、企業、団体で作られた環境NGOです。会員数：個人349、法人52、任意団体8 (2025年12月現在)

「七北田公園 樹木観察会」を開催しました！

MELON会員有志が活動する部会「みやぎ里山応援団」の主催により、11月8日(土)毎年恒例の七北田公園樹木観察会を開催しました！

当日は好天に恵まれ、11月にしてはおだやかな日差しのもとで19人の参加で観察会を開催しました。園内の案内をお願いした佐藤権一さんは、日ごろから七北田公園・都市緑化ホールに勤務しておられ、公園を管理している方ですので、当然園内の樹木にも詳しく、ご持参の資料なども見せながら楽しく解説していただきました。

園内には白い桜の花が咲いており、十月桜というこの時期に開花のピークを迎える種類であ

ることを教えていただきました。また、雪が降る時期に飛び始める通称「雪虫」といわれる虫はアブラムシの一種で樹木にとっては害虫であることなども教わりました。

参加したみなさんは、歩きながら木の種類や開花の時期などを質問したり、途中でどんぐりを拾ったりと様々に楽しみながら散策し、あっという間の90分でした。

回収した参加者アンケートでは、「いつもの散歩コース、新たな視点で楽しめました」「年に1回、とても楽しみにしております。また別の季節も期待しております」「桂の葉のにおい、ドングリのいろいろな形など、

実際に体験できてよかった」などの感想が寄せられ、みなさん満足していただけたようです。

七北田公園は樹木の種類も多く、園内は色とりどりの見事な紅葉がいたるところで見られ、とても良い時期に開催できました。最近クマの出没増加により里山にもなかなか行けない状況が続いていますので、公園を歩きながらのんびり紅葉を楽しむ良い機会を提供できたと思います。こうした体験をきっかけに、里山や自然を大事にする気持ちを再認識していただければ幸いです。

(事務局長 小林幸司)



どんぐりマップを手にして説明する
佐藤権一さん



園内を散策する参加者の皆さん



多彩な樹木のある七北田公園

佐藤権一氏

(公益財団法人仙台市公園緑地協会・七北田公園都市緑化ホール緑の相談員)

みやぎ・環境とくらし・
ネットワーク(MELON)

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台 5F
TEL 022-276-5118・FAX 022-219-5713
Eメール melon@miyagi.jpn.org URL <https://www.melon.or.jp>

■ 会員生協

みやぎ生活協同組合
生活協同組合あいコープみやぎ
松島医療生活協同組合
みやぎ県南医療生活協同組合
東北大学生生活協同組合
東北学院大学生生活協同組合
宮城教育大学生生活協同組合
宮城大学生生活協同組合
東北工業大学生生活協同組合
尚綱学院大学生生活協同組合
宮城学院生活協同組合
大学生生活協同組合
みやぎインターカレッジコープ
生活協同組合連合会大学生協事業連合
(東北地区)

みやぎ仙南農業協同組合
宮城労働者共済生活協同組合
宮城県高齢者生活協同組合

発行

宮城県生活協同組合連合会

会長理事 冬木 勝仁

〒981-0933

宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45

フォレスト仙台5F

TEL 022-276-5162 FAX 022-276-5160

ホームページ <https://kenren.miyagi.coop/>

業務時間：土・日・祝祭日を除く月曜日～金曜日
午前9時30分～午後5時まで